

令和2年度
特別展

飛鳥の石造文化と石工



酒船石遺跡 亀形石槽（復元品）

2020年8月4日(火) → 9月22日(火)

- 休館日:月曜日休館(月曜日が祝日と重なれば翌平日) *8月15日(土)は無料入館日
- 開館時間:午前9時から午後4時30分(最終入館は午後4時まで)
- 入館料:一般350円、大学生200円、高校生及び18才未満、70歳以上(年齢のわかるものが必要)は無料
- 主催:独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館 ●後援:文化庁、近畿日本鉄道株式会社

新型コロナウイルス感染症対策にご理解・ご協力をお願いいたします。

- マスク着用でご来場ください。
- 体調不良、発熱や咳などの症状がある方はご遠慮ください。
- 検温・消毒・ソーシャルディスタンスの確保などにご協力ください。
- そのほか詳細は当館ウェブサイトをご参照ください。

奈良文化財研究所

飛鳥資料館

飛鳥の石造文化と石工



酒船石遺跡 亀形石槽(復元品)の製作

飛鳥は石の都と形容されるほど、飛鳥時代の人々はさまざまに石材を利用していました。石人像、須弥山石、猿石、亀形石槽など、独特な意匠の石造物が飛鳥の各地に点在しています。これらは何のために造られたのかわからないものも多く、謎の石造物として古くから人々の関心を集めてきました。このほかにも、自然石のまま組み上げた石舞台古墳の石室や、精美な切石の高松塚古墳・キトラ古墳の石室、宮殿に敷き詰められた石敷、山田寺の蓮華座を彫刻した礎石など、多くの石造文化財が飛鳥の古代文化を彩っています。

飛鳥の石造物の中には実物を容易に見ることができないものもありますが、飛鳥資料館の庭園では長年にわたって製作した代表的な石造物の精巧な復元品を野外展示しています。今回、新たに復元した酒船石遺跡の亀形石槽が初公開となります。本展覧会では、展示室と庭園の双方を利用して、多彩な飛鳥の石造物を紹介し、その魅力に迫ります。

また、飛鳥資料館に展示している石造物の復元品を手がけた石工の左野勝司氏のご協力によって、近現代に実際に使われていた石工の道具とともに、石造物復元品を製作した際の図面や写真などを展示し、現代に受け継がれている石工の技の一端をご紹介します。

日本人と石の関わり、石で造られた文化財の魅力を感じながら、展示室の資料を見学し、あわせて庭園を散策していただければ幸いです。



さまざまな石工の道具



重要文化財 石人像 東京国立博物館所蔵



高取の猿石(復元品)



猿石 女(復元品)



猿石 山王権現 裏面(復元品)



【交通】

近鉄橿原神宮前駅・飛鳥駅から飛鳥周遊バス(赤かめ)で「明日香奥山・飛鳥資料館西」下車、または近鉄・JR桜井駅から奈良交通(36系統:明日香奥山・飛鳥資料館西行)バスで「飛鳥資料館」下車

【駐車場】

無料 普通車11台分(近くに有料駐車場あり)

奈良文化財研究所

飛鳥資料館

〒634-0102 奈良県高市郡明日香村奥山601 TEL. 0744-54-3561
<https://www.nabunken.go.jp/asuka/>